

阿賀町学校施設長寿命化計画 <概要版>

■背景・目的等

- 本町では、阿賀町教育の大綱（令和2年4月）において『子どもは地域(社会)の宝』、『町民は地域の大切な構成員』という基本的な考えのもと、目指す子どもの姿、町民の姿の実現に向けて取り組んでいます。
- 学校施設は、老朽化が進むにつれ、更新需要が高まる中、国や地方自治体の財政は厳しく、従来の整備方法では対応が困難となっていく見込みです。このため、文部科学省は、全国の教育委員会に対し、2020（令和2）年度までに公立学校施設に係る個別施設計画を策定し、学校施設の改修等について計画的に取り組むよう求めています。
- 本町においても、学校施設の老朽化に伴い維持・更新が求められる一方で、人口減少や少子高齢化の進展による社会構造の変化に伴い、財政状況はより厳しくなると予想されます。また、児童生徒数の減少により、学校が小規模化するなど教育環境も大きく変化しています。
- こうした背景から、学校施設を可能な限り長期間使用し、施設整備に係るコストを抑制することを目標とした学校施設の長寿命化に向けた検討を行うことが求められます。

■計画の位置づけ

- 本計画は、国の「インフラ長寿命化基本計画」に規定される個別施設計画に位置づけられるものです。

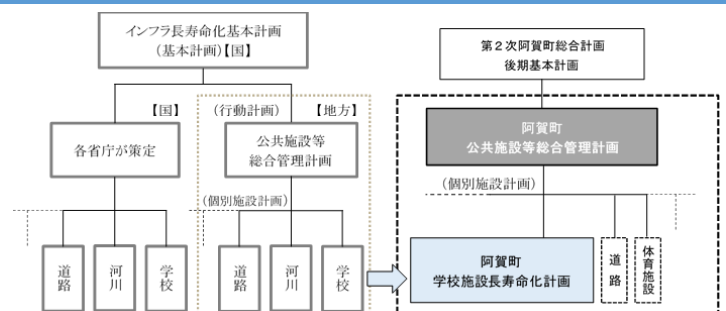


図1 本計画の位置づけ

■計画期間

2021（令和3）年度から2036（令和18）年度までの16年間

※ 本計画は、上位計画等の見直しや社会情勢の変化などの状況に応じて、適宜見直しを行います。

■対象施設

- 本計画の対象施設は、本町が所有する学校教育係施設（小学校3校、中学校2校、学校給食調理場2箇所）の計7施設とします。

	施設数	棟数
小学校	3	10
中学校	2	5
学校給食調理場	2	2
計	7	17

注) 三川小学校と三川中学校は、校舎を共有しているので実際は15棟となります

■学校施設の目指すべき姿

高度情報化に対応した学校づくり

- 教育環境に求められる機能は、時代の変化に伴い多様化します。文部科学省では「GIGA スクール構想」を打ち出しており、高速大容量の通信ネットワークの構築と公正に個別最適化された創造性を育む教育を全国で実現させる事業が進み始めています。こうした動きに対応するため、ICT教育を推進し、多様な学習活動のニーズに対応できる学校施設を目指します。

社会情勢の変化に適応した学校づくり

- 児童生徒数の減少により、学校が小規模化するなど、教育環境が大きく変化しつつあります。今後も児童生徒数の減少は予想されており、子ども同士の人間関係の構築や社会性を身に付ける場として、環境の変化に的確に対応できる学校づくりを検討します。

安全で教育環境が充実した学校づくり

- 今後の学校施設の維持保全については、限りある財政状況のもとで、各学校施設・設備の修繕及び工事を計画的に実施し、ライフサイクルコストの縮減に努めます。
- 学校は、災害時における避難施設としても利用されることがあり、児童生徒だけでなく、職員や地域住民の利用にも配慮した学校施設を目指します。
- 地産・地消を取り入れ、安全かつバランスの取れた給食を提供し、児童生徒の健全育成を目指します。

■学校施設の老朽化状況の実態

- 建築部位、設備ごとの劣化状況について、屋根・屋上、外壁は法定点検調査結果を活用して評価を行い、内部仕上げ、電気設備、機械設備は経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価を行いました。

表1 建物の健全性及び劣化状況等の評価結果

建物基本情報								構造躯体の健全性			劣化状況評価						備考	
通し番号	施設名	建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		築年数	耐震安全性			屋根・屋上	外壁	内部仕上げ	電気設備	機械設備		健全度(100点満点)
						西暦	和暦		基準	診断	補強							
1	津川小学校	管理教室棟	RC	3	2,408	1980	S55	40	旧	済	済	C	C	B	B	B	62	
2	津川小学校	教室棟	RC	3	1,466	1980	S55	40	旧	済	済	C	C	B	B	B	62	
3	津川小学校	食堂棟	S	1	37	1981	S56	39	旧	済	済	B	C	B	B	B	65	
4	津川小学校	屋内運動場	S	2	1,174	1982	S57	38	新			B	B	B	B	B	75	
5	上川小学校	管理教室食堂棟	RC	3	1,536	1978	S53	42	旧	済	済	C	B	B	B	B	72	
6	上川小学校	特別教室棟	RC	3	817	2005	H17	15	新			B	B	B	A	A	81	
7	上川小学校	屋内運動場	S	1	576	1980	S55	40	旧	済	済	B	B	B	B	B	75	
8	三川小学校	教室棟・教室管理棟(1F,2Fの一)	RC	3	1,092	1966	S41	54	旧	済	済	A	B	C	C	C	55	No13と同一建物
9	三川小学校	教室管理棟(1F)	S	2	163	2004	H16	16	新			A	B	B	B	B	77	No14と同一建物
10	三川小学校	総合活動棟	S	1	322	2004	H16	16	新			A	B	B	B	B	77	
11	阿賀津川中学校	管理教室棟	RC	3	4,116	1973	S48	47	旧	済	済	C	C	C	C	C	40	
12	阿賀津川中学校	屋内運動場	S	3	2,811	2007	H19	13	新			A	A	B	A	A	91	
13	三川中学校	教室棟・教室管理棟(2F)・教室管理棟(2E)	RC	3	2,040	1966	S41	54	旧	済	済	A	B	C	C	C	55	No8と同一建物
14	三川中学校	教室管理棟(2E)	S	2	163	2004	H16	16	新			A	B	B	B	B	77	No9と同一建物
15	三川中学校	屋内運動場	S	2	1,821	1968	S43	52	旧	済	済	B	B	C	C	C	53	
16	津川学校給食センター	給食センター	RC	1	405	1980	S55	40	旧	-	-	B	C	C	C	C	43	
17	鹿瀬学校給食センター	給食センター	W	1	298	1988	S63	32	新			B	C	C	B	B	52	

【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の見)
D	早急に対応する必要がある。(安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し、施設運営に支障を与えている)等

【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
A	20年未満
B	20年～40年
C	40年以上
D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

■長寿命化による維持・更新コストの把握

【従来型のコスト】

- ❑ 従来型では、すべての建物を建築後 50 年で改築した場合を想定し算出します。
- ❑ 従来型の維持・更新コストは、今後 40 年間で約 115 億円、年平均約 2.9 億円となります。
- ❑ 過去 5 年間の施設関連経費の平均は約 0.6 億円で、1 年あたり約 4.8 倍の費用がかかることとなります。特に令和 12 年までの 10 年間では多くの建物が改築時期を迎え、多額の費用が見込まれます。

【長寿命化型のコスト】

- ❑ 長寿命化型では、劣化状況や健全性を考慮して長寿命化判定を行い、建築後 50 年で長寿命化改修し 85 年まで使用する場合について算出します。
- ❑ 長寿命化型の維持・更新コストは、40 年間で約 99 億円、年平均は約 2.5 億円となります。
- ❑ 過去 5 年間の施設関連経費の平均は約 0.6 億円で、1 年あたり約 4.2 倍の費用がかかる見込みです。

〔従来型〕 40 年間の総額 115 億円、 約 2.9 億円/年	—	〔長寿命化型〕 40 年間の総額 99 億円 約 2.5 億円/年	=	〔縮減額〕 約 16 億円
--	---	--	---	-------------------------

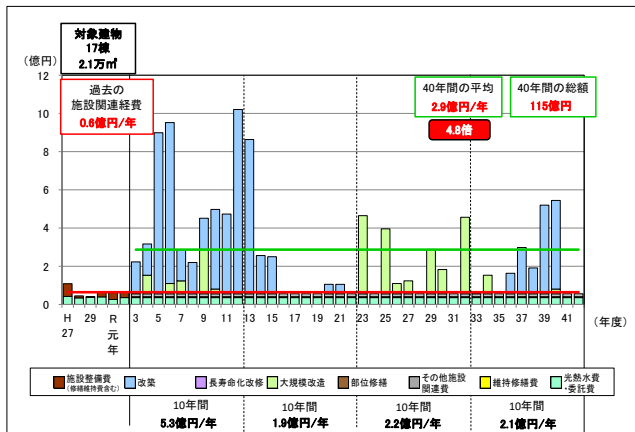


図2 従来型の維持・更新コスト

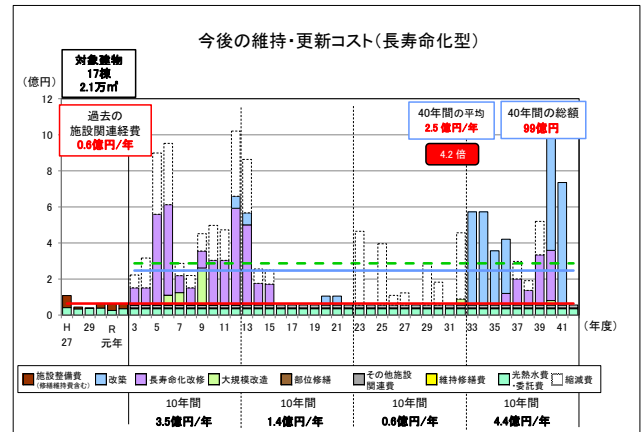


図3 長寿命化型の維持・更新コスト

■学校施設整備の基本的な方針等

【学校整備の基本方針】

- 基本方針 1：ICT 教育に備えた施設整備を図るとともに、情報セキュリティの強化も進め、新たな学習環境に適応した学校づくりを目指します
- 基本方針 2：将来的な人口の減少及び児童生徒数の減少を踏まえつつ、学校の統合に関する検討を継続し、子どもたちが人間関係の構築や社会性を身につける場として、ふさわしい教育環境を創出できる学校づくりを目指します
- 基本方針 3：老朽化が進む学校施設を法定点検や職員等により劣化調査を行い、修繕や更新などを適切に行い、学校施設の長寿命化と税制負担の軽減を図ります。

【学校整備の基本方針】

- ❑ 人口の減少、少子高齢化が進む中で、子どもたちの良好な学習環境の提供を持続するため、原則として既存の学校施設を維持していきます。
- ❑ 今後、児童生徒数が減少し、小規模化が顕著となる学校については、学校や地域の実情等を総合的に勘案しながら、学校規模及び配置の適正化を図ります。
- ❑ 学校給食調理場は、現在 2 箇所稼働していますが老朽化が進み、機能面でも不足する点が多いことから、移転集約を検討します。

【長寿命化及び予防保全の方針】

- ❑ 改築を前提とした老朽化対策から計画的な維持保全を行い、長寿命化を図る施設を設定し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を図ります。
- ❑ 長寿命化を図る施設については、大規模改造（機能回復）、長寿命化改修（機能向上）の実施により、経年の機能や性能の劣化を抑制するとともに、省エネルギー化やバリアフリー化等の社会的要求への対応をあわせて行います。
- ❑ 損傷や故障の発生に伴い修繕を行う「事後保全」ではなく、損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで、機能・性能の保持・回復を図る「予防保全」を導入します。

■長寿命化の実施計画

【改修等の優先順位】

- ❑ 学校施設の改修等の考え方は、建築年度の古い順に劣化状況を勘案して検討します。
- ❑ 改修等は校舎、屋内運動場、園舎で実施することを基本とします。

【学校施設の実施計画】

- ❑ 学校施設の直近5年の実施計画は、表2のとおりです。

表2 直近5年の実施計画

事業名称	年度											
	2021		2022		2023		2024		2025		2026～	
	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費
長寿命化改修									阿賀津川中校舎		三川小中学校	
新増築事業							学校給食センター					
施設整備費			阿賀津川中学校 トイレ改修	45.6					未定			
トイレ整備			三川小中学校 トイレ改修	44.1								
空調整備	阿賀津川中学校 特別教室エアコン設置	4.6	三川小中学校 普通教室エアコン設置	未定	中学校 特別教室エアコン設置	未定	小学校 特別教室エアコン設置	未定				
維持修繕費	学校施設全体	4.6	学校施設全体	4.6	学校施設全体	4.6	学校施設全体	4.6	学校施設全体	4.6	学校施設全体	4.6
光熱水費・委託費	学校施設全体	35.8	学校施設全体	35.8	学校施設全体	35.8	学校施設全体	35.8	学校施設全体	35.8	学校施設全体	35.8
合計		45.0		130.1		40.4		40.4		40.4		40.4

■継続的運用方針

【情報基盤の整備と活用】

- ❑ 施設の基本情報、光熱水費、修繕履歴等の情報をデータベースに整理して、一元管理することにより、計画的かつ効率的な維持管理を推進します。

【推進体制等の整備】

- ❑ 計画を継続的に実施するために、教育委員会を中心に関係課と連携し、全庁的な体制で取り組んでいきます。
- ❑ 学校施設の維持管理については、各学校の職員による劣化状況調査や法定点検による報告書を活用して、不具合の早期発見と修繕対応を図ります。

【推進体制等の整備】

- ❑ 計画の進捗状況を把握・評価し、状況に応じて適切に改善を行います。
- ❑ PDCA サイクルの考え方に基づいて計画の推進に取り組みます。特に、計画の見直しに際しては、長寿命化の実施状況、老朽化の状況を評価し、再検討を行います。

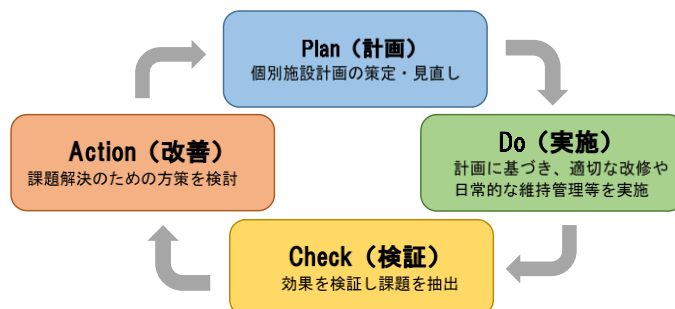


図4 PDCA サイクルに基づく計画のフォローアップ